



Iwate Association for UNICEF

2019年7月
【発行】
岩手県ユニセフ協会
(旧 日本ユニセフ協会岩手県支部)

〒020-0690
岩手県滝沢市土沢220-3 いわて生協本部2F
TEL 019-687-4460 FAX 019-687-4491
e-mail : sn.iunicef_iwate@todock.coop
ホームページ http://www.unicef-iwate.jp/

ごあいさつ

岩手県ユニセフ協会 会長
あずまね ちまお (岩手日報社 代表取締役社長)
東根 千万億



「子ども最優先の社会を願う」

私たちは今、千年に一度の規模と言われた東日本大震災の悲劇を乗り越え、復興への道を懸命に歩んでいます。国内はもちろんのこと世界中で大規模災害が多発しています。大規模災害の時代であればこそ支援活動に一層のスピードが求められます。ユニセフが提唱する「子ども最優先の原則」も社会全体に周知させる一段の努力が必要でしょう。

今年3月15日、県ユニセフ協会の会長に就任しました。早速、日本ユニセフ協会の個人、団体賛助会員の双方で加入手続きをし、正式に仲間入りをさせていただきました。5月19日には「第9回ユニセフ・ラブウォークinいわて」に参加。5kmコースを市民の皆さんと歩きながら「すべての子どもに5歳の誕生日を」と祈念しました。

冬の街頭募金キャンペーンにもぜひ参加したいと思っています。こうした活動の際に理事や評議員のみなさんにもっとアクションを起こしていただくようお願いしてまいります。

2019年度 第1回理事会・評議員会報告

2019年3月15日(金) 岩手県ユニセフ協会2019年度第1回理事会・評議員会が22名、書面出席12名の出席もと、2018年度事業報告・決算報告、2019年度事業計画・収支予算案が満場一致で可決されました。

2019年度役員に関する件では、会長に(株)岩手日報社代表取締役社長東根千万億氏が就任、退任された前会長三浦宏氏は顧問に就任されました。

2011年東日本大震災では半世紀ぶりに日本支援があり、日本ユニセフ協会と連携して岩手県ユニセフ協会の会長としてご尽力され、理事会・評議員会終了後の感謝のつどいでは、日本ユニセフ協会水野眞里子部長から感謝状が贈呈されその労をねぎらいました。



▲出発式であいさつする県ユニセフ協会東根会長

▲盛岡大学生の元気なエールで出発

小学生・高校生・大学生から80代の方々の参加で

思い思いのペースで歩いた汗が、ユニセフを通じて開発途上国の子どもの健康に役立てられるユニセフ・ラブウォーク。

5月19日(日)、快晴の下、盛岡城跡公園広場をスタート・ゴールに、5キロ・10キロのコースに分かれ、健康づくりと途上国の子どものためにウォークしました。

出発式の進行を務めた盛岡大学2年渡邊拓人さんは、「今日ががんばります!」と元気に挨拶。岩手県ユニセフ協会東根千万億会長の挨拶、みんなでストレッチ体操・盛岡大学生の元気なエールでスタートしました。

県内各地からの参加者は140名を超え、5km・10kmに分かれて、健康な汗を額に国際協力のユニセフ・ラブウォークを楽しみました。



▲10kmに参加した10歳の女の子…完歩しました

参加者から

- 5kmサイコーでした!「柳あおめる…」
- 「木々の若葉、花を見ながら、鳥の声を聞き…楽しかった。」
- 「盛岡の自然の中で、楽しく歩いて良かったです。今日の募金で世界の子どもの健康に助かるといいですね。」
- 「楽しくウォーキングできたり、貢献も少しはできたかなと思えました。とてもおもしろかった。」
- 「10km歩くのははむりかと思ったけど、最後まで歩いてよかったです。」10歳

午前中に終了し完歩賞を手に三々五々解散

参加費はユニセフ募金として7万929円を日本ユニセフ協会に送金し、途上国の子どものために届けられます。ウォーキング協会役員のみなさま・ユニセフボランティアスタッフのみなさま、ご協力ありがとうございました。



【2019年6月6日
コックスバザール(バン格拉デシュ)発】



© 日本ユニセフ協会/2019/tetsuya.tsuji

日本ユニセフ協会大使 長谷部誠選手
ロヒンギャ難民キャンプを訪問

ブンデスリーガ(ドイツ・プロサッカーリーグ)で活躍し、仕事と生活の拠点を置くドイツの日常生活の中で直面した「欧州難民危機」。日々の生活の中で目にするようになった難民や移民の子どもの姿に、かねてから「何かできないか?」との思いを募らせていた長谷部選手は、昨年11月のギリシャ難民キャンプへの訪問に続き、6月5日から、バン格拉デシュのロヒンギャ難民キャンプを訪問しています。

世界最大の人道危機

クトゥパロン難民キャンプに設置された、重度・急性栄養不良の

子どもたちの治療施設を訪れた長谷部大使。こうした施設を拠点にした治療活動と共にユニセフが力を注いだ予防のための適切な母乳育児や離乳食の推進が実り、5歳未満の子の急性栄養不良の発症率は、約2年前の7%から1%に改善した。

難民が一気に押し寄せた場所は、仮の住まいとなる施設や医療施設はおろか、電気も水道も下水設備も無い「野原」。食糧も水も無い状況の中、大規模な感染症の発生と極度の栄養不足から、特に弱い子どもたちの命が大きな危険に晒されました。ユニセフをはじめとする国際機関や人道支援団体は、直ぐに緊急支援活動を開始。日本(民間と政府)を含む国際社会からも大きな支援が寄せられ、当時は「世界最大の人道危機」と呼ばれた状況でしたが、「最悪のシナリオ」は回避されました。そうした最大の危機から、間もなく2年の月日が過ぎようとしています。

岩手県ユニセフ協会活動報告

2019年度 ユニセフ出前講座

金ヶ崎町立西小学校 5・6年生 26名



▲「ユニセフってなあに」のパネルに見入る児童



▲ユニセフ支援グッズの説明を聞く

1月29日(火) 世界にはさまざまな国があり、その国に住む子どもたちはどんな暮らしをしているのでしょうか。今回は「栄養不良から小さな命を守るう」と学びました。

岩手県ユニセフ協会からボランティアスタッフ工藤景子さん、藤原綾子事務局長が参加しました。

栄養不良かどうか・・・上腕周囲(上腕の周囲を測ってみよう、その細さでわかる)ユニセフが支援している赤ちゃん体重計、プランピーナッツ・経口補水塩・虫下し・きれいな水って大切なんだよ。水がめを使って水くみ体験をしました。

参加者の感想から

世界では、池や川の水を使うしかなかく病にかかってしまうことにびっくりしました。げりなどになると、体の水分がなくなり命を失ってしまうことがわかりました。また、遠くの川や池からくんでくるため、学校に行けなくなる人もいたことがわかりました。ユニセフは井戸を作ったり、栄養がない子がいたとき、すぐ栄養ほきゅうすることのできるものを送るといふことを知りました。ぼくはぼん金をして世界の子どもたちが生きる権利、育つ権利、参加する権利、守られる権利をえることができるようにしたいと思いました。

(5年 男子)

世界には、とても貧しい人や戦争している人たちがいることを知り、おどろきました。そして困っている子どもたちを助けるユニセフの活動はとても大切なことだとわかりました。これからは、私も積極的に募金に参加したり、ニュースに目をむけるようにしたいです。100円が葉100個分になったり、1000円が脱水症を防ぐ道具になったりする募金の大切さもいいなと思いました。自分のことだけではなく、人のことも考えられる人になりたいです。学校に行けない人やお金がなくて文房具が買えない人たちを救うために、募金でユニセフを応援しようと思いました。

(6年 女子)

岩手大学教育学部 社会科教育科



2月6日(水)「人権と教育」の一環として専攻する学生6名が「子どもの権利条約とユニセフ」について、教職につく人、国際的な仕事をめざしている人など真剣に学びました。



岩手県ユニセフ協会からボランティアスタッフ松田和彦さん、工藤景子さん、藤原綾子事務局長が参加しました。

今回、ユニセフ協会の方々からお話を聞いたり、ワークショップを行い子どもの権利条約について学んでみて、非常に理解を深めることができました。特にワークショップでの活動が一番印象的で子どもの権利条約が40条まであり、教育面であつたり生活面など様々な面から子どもを守るための条約があることに驚いた。

また、こんな街だったらいいな、嫌だなと思うものを考えるものでは普段自分たちが過ごしている環境がどれだけ恵まれているかを再認識しながら考えることができたと同時に感謝して生活しなければならないなと思った。今回の活動を通して世界の困っている子どもたちのために自分たちがすることは何かを考えさせられたし、出来ることを少しずつでも行っていきたいと思った。

(3年男)

今回自分の体験上はじめてユニセフの方に説明をいただいて日本がどのようにかかわってきたのかについて知ることができました。

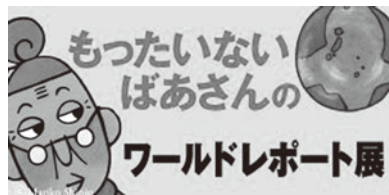
戦時中、後や震災のとき子供たちを守るという観点から活動を行ってきたユニセフは変わらず今も世界の子どもたちを支援している。それが世界規模で行われていることがすごいことなのだと思います。授業のときに感想でも述べた通り、青年海外協力隊に少し興味があり、困っていること、人に手を差し伸べるという観点は一緒なのだろうと感じました。とても自分の知見が広がったと思います。

(3年女)

もったいないばあさんのワールドレポート展

～絵本作家真珠まりこさん～

「地球の問題と世界の子どもたち」



もったいないばあさんといっしょに考えるユニセフパネル展が、3月20日(水)～3月23日(土) 花巻市 妙圓寺 3月27日(水)～3月29日(金)・盛岡市プラザおでつで開催されました。

入場者 2会場で300名、盛岡会場では、親子の絵本読みきかせも行われ、熱心に聞き入る子どもたち、途上国の子どもたちの写真を見入る小学生など・・・

☆「短い文だったけれど、日本や外国、写真やDVDをみて、世界で

苦しんでいる人の気持ちが分かったので、自分でできることがあつたらやっていきたい」(10才女の子)。

☆「とても分かりやすかった。何か少しでも協力できることがあればと思った。」(女性)

☆「世界中の子どもたちが普通に暮らせるように心から祈りたいです。良識ある指導者たちの良識ある世界のこうあるべきと言う方向性、認識に期待します。」(77才女性)など感想が寄せられました。会場では、ユニセフ募金につながる外国コイン・書き損じハガキ・古切手を会場で受付、カレンダー募金(10,466円)も実施しました。

ユニセフ募金贈呈

盛岡レオクラブ募金贈呈

2月23日、盛岡地区の青少年奉仕団体・盛岡レオクラブ(会長中野翔太)は、「2019世界のカレンダー・リサイクル市」(1月3日～5日まで、カワトクで開催)の益金 21万3,500円を県ユニセフ協会、県ユネスコ協会連盟、盛岡ユネスコ協会の各団体に送りました。



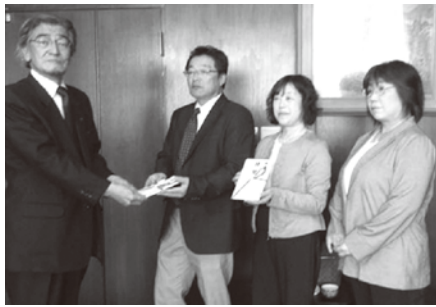
▲中野会長からカレンダー展の益金を受ける
県ユニセフ協会内澤祥子専務理事

県ユニセフ協会内澤祥子専務理事は、「5歳の誕生日を迎える前に亡くなる子どもは世界で540万人と言われていいます。恵まれない子どもたちに届けます」と謝辞を述べました。

いわて生協・岩手県学校生協 2018年度ユニセフ募金贈呈



いわて生協(飯塚明彦理事長)と岩手県学校生協(佐藤淳一理事長)は、2019年4月23日に、岩手県ユニセフ協会(日本ユニセフ協会協定地域組織)の東根千万億会長(岩手日報社社長)に、2018年度の両生協が組合員から寄せられたユニセフ募金を贈呈しました。いわて生協反町久美専務理事は、「難民となっている子どもたちも多く、子どもたちには夢を持って生きてほしい」と述べました。目録を受け取った岩手県ユニセフ協会東根千万億会長は、「SOSをだしている世界の子どもたちに活用させていただきます」と感謝の気持ちを述べました。



▲左から東根会長・県学校生協橋浦栄一主任・いわて生協反町専務理事・佐藤久美子理事

いわて生協…店舗や共同購入の募金、書き損じハガキなど
合計216万4,508円
岩手県学校生協…県内教職員の1万人募金(137万9,212円)
児童会・生徒会26校分の募金(24万1,322円)

国際的視野で社会奉仕活動

盛岡レオクラブ 会長 中野翔太さん



私達盛岡レオクラブは盛岡地域の5つのライオンズクラブによって誕生した青少年による社会奉仕団体です。現在は高校生・専門学生・大学生・社会人を中心に国際的視野に立ち活動をしております。

ボランティア活動を通じて地域社会に奉仕し新しい仲間との関係を築くことができる団体です。世界のカレンダー展とアイバンク

光の箱街頭募金などの活動を行っています。

世界のカレンダー展では毎年1月3日から5日までの3日間企業、大使館、一般の方々などからご提供いただいたカレンダーを販売しその収益金をユニセフ、ユネスコ協会などに寄付をしております。毎年多くの方々に来ていただき、この活動を楽しみにしているとお声を頂くほど地域に浸透している活動であり私達も力を入れている活動であります。私達はこれからもこれらの活動を通じて地域に貢献していくと共に新たな仲間を増やしていきたいと考えております。

2019フェアトレード・デー inいわて

岩手県国際交流協会主催に参加 5月11日 アイーナ

ミニワークショップ“支援って何?” 良かれと思ってやっていることが本当に相手が望む支援でしょうか? 東日本大震災を例にディスカッション。また、映画「ボパディー・インク」の上映、営利目的の途上国開発は巨大産業になっている。善意が貧困を産む原因に? 支援される側の人たちの生の声を伝えるドキュメンタリーでした。



フェアトレードとSDGs

フェアトレードは、貿易のしくみをより公平・公正にすることにより、特に開発途上国の小規模生産者や労働者が、自らの力で貧困から脱却し、地域社会や環境を守りながら、サステナブルな世界の実現を目指す取り組みです。2015年9月、国連で採択された、2015年から2030年までに達成する目標として17の目標「持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals (略称SDGs)」を掲げました。世界を変えるために考え、行動に移していきましょう。

ユニセフと持続可能な開発目標(SDGs)

2015年9月、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える首脳が参加して、ミレニアム開発目標(MDGs)を受け継ぐ新たな国際目標として、「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されました。持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットからなるSDGsは、ユニセフが重視してきた公平性のアプローチ「誰ひとり取り残さない」の考えを根拠に持ち、先進国も途上国も取り組むべき普遍的な目標として設定されました。



ユニセフ戦略計画(2018-2021年)

ユニセフはSDGsの達成を目指すとともに、すべての子どもが公平な機会を得られる未来の実現に向けて、2021年までに達成すべき成果を「ユニセフ戦略計画2018-2021年」として明らかにしました。

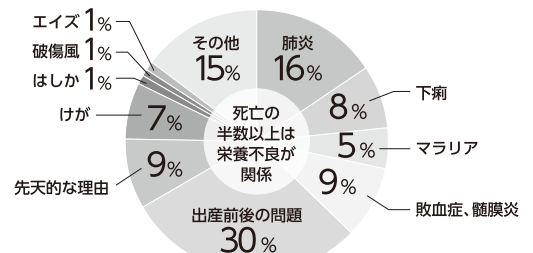
「ユニセフ戦略計画2018-2021年」は、「生存と成長」、「教育」、「子どもの保護」、「水と衛生」、「公平な機会」の5つの分野に焦点を当てています。これらは互いに関連しあっているため、ひとつの分野への取り組みが他の分野の成果にもつながります。

子どもの生存と成長

5歳をむかえる前に
命を失う子ども
は年間

540万人

子どもたちが命を失う原因



ユニセフシアター 「ブランカとギター弾き」



<STORY>

日本人として初めてヴェネツィア・ビエンナーレ&ヴェネツィア国際映画祭の全額出資を得た長谷井宏紀監督がフィリピンを舞台に撮影し、各国の映画祭で高い評価を得た話題作。

舞台はカラフルでエネルギーに溢れたマニラのスラム。YouTubeの歌姫として国内外で人気を集めていたブランカ役のサイデル・ガブレロは演技初挑戦ながら、美しい歌声と演技力で観る者を強く惹きつける。

彼女に生きる術を教える盲目のギター弾きには、生涯を通して実際にフィリピンの街角で流しの音楽家として活躍していたピーター・ミラリ。その他、出演者の殆どは路上でキャスティングされている。劇中に演奏される、スペインをルーツにした素朴で温かいフィリピン民謡「カリノサ」は必聴だ。母親を失うことを思いついた孤児の少女ブランカと、盲目のギター弾きの「幸せを探す旅」。本作は、どんな人生にも勇気を持って、立ち向かう価値があることを教えてくれる、心温まる感動作だ。

<日本ユニセフ協会>

親や信頼できるおとな（養育者）を持たない子どもたちの実情を、孤児になってしまった少女の視線を通して描いた作品です。長年、最も貧しい人々が住むフィリピンのスラム街で活動されてきた長谷井宏紀監督が長編映画として製作された最初の作品となる本作は、フィクションではありませんが、ユニセフ（国連児童基金）が全世界でその根拠に取り組みストリート・チルドレンや児童労働、人身売買など、子どもたちを脅かし、貧困の連鎖を生み、国の経済発展や社会の安定にも悪影響を及ぼす様々な問題をリアルに伝えています。

監督・脚本：長谷井宏紀
製作：フラミニオ・ザドラ(ファティ・アキン監督「ソウル・キッチン」)
撮影：大西健之
音楽：アスカ・マツミヤ(スパイク・ジョーンズ監督短編「アイム・ヒア」)
出演：サイデル・ガブレロ/ピーター・ミラリ/ジョマル・ピソノ/レイモンド・カマチョ

盛岡会場

日時 2019年8月3日(土)
①10:30～ ②13:30～(開場 各30分前)

会場 岩手教育会館 2F 多目的ホール
(盛岡市大通 1-1-16)

入場 無料 **定員** 各回先着 300名
※定員になり次第締め切ります。

申し込みは 電話 019-687-4460 FAX 019-687-4491
E-mail sn.iunicef_iwate@todock.coop

共催 JICA岩手デスク
後援 岩手県教育委員会・盛岡市教育委員会・滝沢市教育委員会

花巻会場

日時 2019年7月27日(土)
①10:30～ ②13:30～(開場 各30分前)

会場 花巻市文化会館 中ホール

入場 無料 **定員** 各回先着 200名
※定員になり次第締め切ります。

申し込みは 電話/FAX 0198-23-5439

後援 花巻市教育委員会、(株)岩手日報社、岩手日日新聞社

親子ユニセフ教室 「外国コイン仕分活動」



ユニセフでは、「外国コイン募金」に取り組んでいます。日本国内では、一部の紙幣を除いては両替できませんが、それぞれの国に戻れば立派な「貨幣」です。海外から帰国した方々が、外国コインや紙幣を募金にご協力いただいています。「1日ボランティア活動」として、お預かりしたコインを国ごとに仕分けします。親子で「ユニセフボランティア」にご参加しませんか。



日時 2019年7月21日(日)
10時～13時(受付9:30～)

会場 いわて生協ヘルプ仙北 2F 第二会議室

内容 ユニセフ活動の学習
・ユニセフはどのような活動をしているでしょう
・今日の仕分け活動がどのように役立つでしょう
・水がめ体験・資料各種の提供、夏休みの課題研究にも役立ちます。

参加費 無料(終了後、ナンと夏野菜カレー用意しております)

募集 小学生親子、10組 お名前と「学年」をお知らせください。

締切 7月15日(月)

申し込みは 電話 019-687-4460 FAX 019-687-4491
E-mail sn.iunicef_iwate@todock.coop

今後のユニセフ活動(9月～12月)

- ◇ユニセフ講座
- ◇ハンド・イン・ハンド街頭募金活動
12月7日(土)盛岡予定
- ◇いわて生協福祉まつり、ワン・ワールドフェスタin いわて出展



▲昨年のハンド・イン・ハンド街頭募金活動

事務局から

○東日本大震災ユニセフ支援で「子どもにやさしい空間」を確保、あそびなどを通じた心のケアの大切さを経験しました。『箱の中の幼稚園』と名付けられた知育玩具が詰まったキット。これからのイベントで子どもたちに遊んでもらおうと思っています。(事務局)

日本ユニセフ協会賛助会員として、世界の子どもたちを応援してください。

○ 賛助会員ってなあに？

ユニセフ日本委員会として、日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー(政策提言)活動を担う日本ユニセフ協会を、年会費によってご支援いただく方法です。会員登録をしていただき、日本ユニセフ協会の機関誌やさまざまなユニセフの資料を通して、世界の子どもたちのおかれている状況について理解を深めてみませんか。国内で行われるユニセフ協力活動の情報を入手し、さまざまなイベントにご参加ください。

○ 賛助会員の種類・会費・会員期間

種類	対象	賛助会員 ※100以上、何回でもご協力いただけます	賛助会員期間
①一般賛助会員	個人の方	100 5,000円	入会月～1年間
②学生賛助会員	18歳以上の学生の方	100 2,000円	入会月～1年間
③団体賛助会員	団体、法人、企業	100 100,000円	入会月～1年間

※一般・学生賛助会員は個人名での申し込みに限ります。 ※賛助会員は寄付控除の対象になります。

お願い 個人・法人を問わず、ユニセフロゴマークを使用したり表示する事、および(公財)日本ユニセフ協会賛助会員である事を営利目的のために表示する事はできません。

○ 賛助会費のお支払い方法

一般および学生賛助会員の会費は、金融機関(銀行、信用金庫等)またはゆうちょ銀行からの口座振替にてお支払いいただけます。お申込み時にご指定いただいた口座から、毎年入会月に会費を引き落としさせていただきます。団体賛助会員の会費については、ご案内を別途お送りしております。ご希望の際は、ご問合せください。

※皆様の個人情報は、公益財団法人日本ユニセフ協会が日本におけるユニセフ国内委員会として行う活動—ユニセフ(国際連合児童基金)本部との協力協定に基づき、世界の子どもたちの権利を守るために日本において行うユニセフの広報活動・募金活動—の目的にのみ利用いたします。

○ 賛助会員の特典

賛助会員としてご登録いただけますと、会員証を発行し、機関誌「ユニセフ・ニュース」(年4回発行)をお届けします。ユニセフが世界で行っている支援活動の報告や、開発途上国の子どもたちの状況、国内イベントの情報など最新情報をご覧いただけます。ご希望の方には、ユニセフ・ニュース等でご紹介するユニセフの最新資料を1部まで無料でお送りしています。

賛助会員を希望される方は県ユニセフ協会まで。